

学習塾・予備校の未来とは
—ソウルの学院で考える—

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：ソウルには何をするために行ったのですか。

A：(林明夫：以下省略)10月25日から27日までの3日間開催された第5回韓・日(学院・私塾)教育交流会に、日本側の団長として参加させて頂くためです。この交流会は、エース教育総合研究所の青木清先生と韓日教育文化協議会の安長江先生、お二人の先生の強力なリーダーシップの下で、韓国学院総連合会が主催し、全国人文教育協議会と全国私塾情報センターが主管して下さいました。

毎日2つずつ、3日間で合計6つの学院を1～2時間かけて訪問し、経営者の先生から御説明を受けた後、質疑応答をし、施設の見学をさせて頂きました。また、交流会では、充実した情報交換と親睦ができ、実り多い研修会でした。

Q：韓国に行くに当たって、何か準備をしましたか。

A：6月に、OECDから韓国経済報告が出されました。その担当者による報告会が、10月19日に東京六本木の国際文化会館で開かれましたので、参加させて頂きました。韓国の成長の原動力は、高い教育レベルにあり、それを支えているのは日本の学習塾や予備校を参考にして経営されている「学院」である旨の報告がありました。この報告に対して、在日韓国大使館の参事官より、自分の子どもも学院にお世話になったが、収入の半分以上が教育費に当てられた。韓国はこれから教育改革が進められる旨のコメントが加えられました。ただ、時間がなくて、どのような教育改革が予定されているのか質問できませんでした。

Q：韓国の教育改革とは何ですか。

A：韓国に来てわかったことは、国が学院の人気講師を国営教育テレビ(EBS)の講師として採用。中学校や高校の教育内容を、国家による課外授業として無料で放送。多くの家庭では、それを録画して何回も学習しているようです。私教育費削減のためのTV放送での学院人気講師による課外授業が、教育改革の目玉のようです。

Q：日本でいえば、衛星予備校の人気講師の授業が何回でも無料で受けられるということですね。林さんは、これを聞いてどうお考えですか。

A：我々にとっては厳しいこととは思いますが、教育の現場にもフリードマン氏の言う「フラット化された世界」が遂にやって来たという感想です。

MIT(マサチューセッツ工科大学)でスタートした大学の講義のホームページによる映像や講義・資料・テストなども含む無料開放は、OCW(オープン・コース・ウェア)と名付けられ、アメリカの主要大学だけでなく、日本も含め今や世界中に広まりつつあります。

8割以上の高校卒業生が大学をはじめとする高等教育機関に進学する日本でも、大学生の基礎学力不足を補う「リメディアル教育(補習教育)」の一環として、ホームページによる中学校・高校の教育内容のレクチャー・オン・ディマンドで1科目1学年分を無料か数百円という超低価格で配信する可能性も高いと思われます。

TVがデジタル化する2011年からは、教育の世界にどのようなことが起こっても不思議ではあ

りません。

Q：デフレは消費者にとって天国、供給者にとっては地獄といわれますが、同じように、コンピュータの発展は受講者には天国で、学習塾や予備校・学院には地獄という時代に突入するのですね。

では、林さんはどのようにしたらよいとお考えですか。

A：コンピュータにより、「フラット化された世界」が到来することは避けられません。このことを、まずは基本認識として持つことが大事だと考えます。

次に大切なことは、MIT や京都大学をはじめとする大学の世界で「オープン・コース・ウェア (OCW)」の名の下で何が起きているのかを知る努力をすることだと考えます。

経済産業研究所 (RIETI) や政府の経済財政諮問会議、世界銀行、OECD などのホームページを見れば、現在どのレベルで資料や映像が配信されるのかがよくわかります。

あとは、自分の教育機関で提供している教育内容のインターネットによる無料配信が、公共機関や NPO によりいつ頃からスタートするかを予測し、対策を立てる以外にありません。

Q：林さんは、どのような対策を立てたらよいとお考えですか。

A：我々が提供しているものは「教育サービス」で、我々は「サービス業」であると考えます。サービス業の最大の課題は、製造業と比べての「生産性の低さ」で、ほとんどの「教育サービス」も「生産性」は余り高くないといえます。

私は、ホームページを活用した小学校・中学校・高校・大学・大学院の教育内容のレクチャー・オン・デマンド方式の無料ないし超低価格提供が始まるのであれば、我々学習塾・予備校・私立学校経営者は、児童・生徒・学生の立場に立ち進んでそれらを活用して学習の効率を上げる、つまり生産性の向上に役立てることが大事だと考えます。

我々「教育サービス」こそ、ICT(インフォメーション&コミュニケーション テクノロジー)を活用して、5年後を目標に「生産性を 1.5 倍」にすることを目指すべきと考えます。

Q：韓国の学院の社会的評価は高いのですか。

A：保護者の間では極めて高いといえるようです。例えば、合格実績の高い学院がある地域には、小学生を持つ教育熱心な保護者がどんどん移り住み、街の様相が一変するほどであるようです。

教育熱心な保護者は、学院に通学するのに便利なマンションに移り住み、小学生のうちから高校卒業まで学院に通わせる。1200 万人もの人口を持ち都市化の進むソウルでは、韓国経済の成長と少子化を背景として、このような「社会現象」が生じているようです。

韓国の有名な学院の先生方ほど、日本の学習塾・予備校を熱心に視察し続け、教育内容や施設を改善し続けているようです。私も学ばせて頂くところばかりでした。

Q：最後に、学習塾・予備校・私立学校の経営者の皆様に一言どうぞ。

A：我々と同じ志を持ち民間教育の立場で熱心に教育を行っている学院の先生方と接することができ、とても幸せでした。

来年は、5月下旬に「日光」での開催が決まりましたので、多くの先生方に御参加頂きたく希望いたします。

最後に、本を一冊御紹介させていただきます。「天声人語」の元筆者である辰濃和男著「文章のみがき方」(岩波新書、2007年10月19日刊)です。「いい文章」を書くには何を心がけるべきかが書かれています。文章をお書きになる立場の先生も多いと思いますので、御参考まで。